

七ころび 八起き

第 21 号
平成 29 年
秋号



医療法人達磨会 東加古川病院

Higashi Kakogawa Hospital

～未来地域に根ざした医療～

理 念

- 1) 精神医療に携わることにより自覚と誇りを持ち、全力を尽くす。
- 2) 患者様、ご家族を含めた地域の人々の満足と信頼が得られるような病院づくりを目指す。
- 3) 地域精神医療に貢献するために、精神保健活動、啓蒙活動、対外活動を積極的に行う。
- 4) 安全な医療と安心できる環境を提供するために継続的な改善を重ねる。
- 5) 患者様の権利を尊重する。
- 6) 安定した経営基盤を維持する。

作 品

紹 介

男性閉鎖病棟
作業療法の作品

10・11月
カレンダー



「精神科病院の機能分化」

理事長・院長 森 隆志

平成 29 年、80 周年記念式で「チーム医療」について出した院長諮問のまとめを発表しました。「チーム医療」のテーマはこれからの精神科病院の根幹的なテーマと考えておりますので、この「まとめ」はむしろはじまりと考えて、今後もより日常臨床の中でこのテーマを深め、広げていただきたいと思っております。

また、「チーム医療」を強調しております理由として、精神科病院における臨床の機能分化の流れがあります。急性期や脱急性期、回復期、慢性期、荒廃期などのステージが今後分化し、それぞれのステージに特化した病院形態を選択せねばならない事態がおこるであろうと予測されています。これは将来的には「群盲象を撫でる」状態がおこってくると憂慮されます。つまり、象の耳をさわった者は象とは耳の大きなもの、鼻をさわったものは象とは鼻の長いもの、等々で部分部分を知っていても全体像が把握できなくなるということです。特化して専門性が増すほど全体的な見透しが困難となるわけで、空は大きくて広いのに井の中の蛙には井戸の口の広さしか見えない—こういった事態におちこまないためにも、それぞれの専門的な情報連絡・相談などを密にめぐらせて行う「チーム医療」が必要不可欠からざる概念であると固く思っているのです。



トピックス

アルコール勉強会

地域医療連携室 有元 純

「お酒をやめたいけどやめられない…」 「そもそもアルコール依存症って病気なの？」 などアルコールに関する様々な問題について、患者様と病院スタッフがアルコールの知識を一緒に学び合う場となっています。講師は医師、看護師、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士が担当し、1クール全10回。『依存症とは』『否認』『心の整理』などをテーマに、アルコールが及ぼす精神的・身体的影響、心理的影響・社会的影響について医療、福祉双方の面から学べ、座学の講義だけではなく、体力作りも行っています。

アルコール依存症の患者様は、一般病院でアルコール性肝障害の治療を受けていたり、転倒による骨折で整形外科を受診していましたが、本人や家族、医療従事者が十分な知識がないまま専門的な医療機関につなげられずに本人の依存症が進行している方が数多くいらっしゃいます。依存症が疑われる方にぜひ勉強会をご案内ください。



アルコール家族会

地域医療連携室 有元 純

アルコール依存症という病気は、家族も不安やつらさを強く感じており、家族が「本人が治療する気がないからどうにもならない」と治療をあきらめたり、うつ病など精神疾患を発症するケースがあります。また、家族自身が本人の病気を手助けしている場合（イネイブリング）があり、本人も家族もそのことに気付かず依存症が長期化しているケースもあります。

家族会では、アルコール勉強会の講義内容を視聴し、その後講師や参加者同士での話し合いの場を提供することによって、家族がこの病気と向き合うための何らかのヒントが得ること、参加者同士がお互いの悩みを共有し合うことを目的としています。1クール全10回、1回のみ参加可。依存症の方の家族だけでなく、アルコール問題で悩んでいる家族であればどなたでも参加できます。



医局コラム vol.20



「アルコールについて」

医師 南 和樹

アルコール依存症は珍しい病気ではなく、男性の1.9%、女性の0.1%が該当します。全国では約80万人の患者がいると推計されますが、そのうち医療機関を受診するのは4.4万人程度とされています。このようにアルコール依存症の患者がなかなか受診に至らない原因の一つとして否認が考えられます。否認とは「自然と自分の飲酒問題を否定する心の動き」のことで、これが本人の中にあるために受診を遠ざけ、断酒を困難にさせてしまいます。アルコール依存症の治療にあたり、まず自分が病気ではないかと疑い、その特徴を知り、否認からの脱却することが必要で、それによって断酒を継続していくことが可能となります。当院ではその一助として専門的な治療プログラムを提供しております。

ぜひ心当たりがあれば、ご相談ください。



「精神障害者の地域移行関係職員研修」について

地域医療連携室 黒田 雄平

平成29年9月27日、当院の多目的ホールにて、兵庫県精神保健福祉事業の一環として「精神障害者の地域移行関係職員研修」を開催致しました。当日は看護師を中心とした当院のスタッフに加え、市の障がい者支援課や健康福祉事務所の職員の方々にもご参加いただき、地域移行について考える有意義な場となりました。

研修会では11年の入院を経て自宅へ退院された患者様とご家族に協力いただき、退院を決めたきっかけや退院後の生活についてお話いただきました。また当時退院支援に携わったスタッフより、退院に向け専門職としてどのように関わり、連携しながら支援に取り組んだかという点を発表し、グループワークにて「退院に向けて自分たちには何が出来るか」ということを意見交換しました。

体験発表に向け、患者様と入院から退院後の生活を振り返る中で、患者様やご家族の思いを“傾聴する”“寄り添う”“共に考える”という日々変わりなく取り組んでいることが退院を後押しした一因であり、“当たり前”に感じる支援こそ大切にできる支援者でありたいと改めて感じました。また現在では家族との旅行を楽しんだり「自分の時間」を大切に生活している患者様の姿を知り、私たち支援者もパワーを頂く貴重な研修会となりました。



取 り 組 み

☆福利厚生(アロマセラピー)☆

地域ケア部 村岡 由美

H27年4月から全職員対象に日頃の疲れを癒し、元気を取り戻して生き生きと過ごせることを目的に外部講師を招きリラクゼーション講習を行っています。美容と健康をテーマにアロマの精油を用いて、マッサージや筋膜トレーニングを実施しています。勤務を終えた職員が、いい香りを嗅ぎながらイタ気持ちいい感じを味わい楽しく参加しています。その夜はぐっすり安眠。翌日には気持ちも身体もスッキリとした朝を迎えています。



☆パン工房☆

月曜日から土曜日まで、病院の敷地内でパンやお菓子を製造・販売しています。是非お立ち寄りください♪



* 外来変更のお知らせ *

平成29年10月3日より外来診察医師の変更がありますので、下記にてご確認ください。
*受付時間は月曜日から土曜日の8時30分～11時30分です。

外来診察のご案内

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	森院長	木村	森院長	森院長	木村	森院長
	田原	菊川	賀川	津田	片上	玉田
	片上	津田	南	浅野	大西	菊川
午後		七野		南		大西
				堀野 (思春期外来)		

広報誌(PDF)はホームページからも閲覧・印刷可能です。



編集後記

アルコール治療に関してお問い合わせが増えてきているため、当院での取り組みについて特集しました。まずはご相談だけでもお気軽にお問合せ頂ければ、と思います。

広報担当者 一同

医療法人達磨会 東加古川病院

〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1197 - 3

TEL : 079 - 424 - 2983 (代表)

FAX : 079 - 424 - 2985

HP : <http://www.tatsumakai.jp/>

当院では2004年にISO9001
を取得しています



- ①公共交通機関でのご来院
JR東加古川駅下車 北口より徒歩10分
- ②お車でのご来院
加古川バイパス 加古川東ランプ下車(山側すぐ)